

サンデー
SUNDAY
談話室

病気や事故、加齢などにより、上手に言葉を発することができず、飲み物や食べ物を飲み込むことができなくなった人を支援する言語聴覚士。北見市内の介護老人保健施設に勤務する傍ら、仲間の言語聴覚士や介護職員らとともに、飲み下す力、吐き出す力が低下する嚥下障害の理解や予防に取り組むため、任意団体「食べる力・円」を4月に設立し、代表に就任した。

「円」という名前には、輪になっただけを合せて「い」と「の」の思いを込めた。5月から月1回、高齢者や在宅で介護する家族、医療・介護職を対象に、口の体操や発声練習などをを行う「嚥下サロン」いただきます」を市内で開催。毎回5人ほどが参加している。

食べ物などを嚥って気管や肺に吸い込んでしまう「誤嚥」は、肺炎を引き起こす可能性がある。その対策として「むせて吐き出す力」をつけるためのゲームを考案。カールリングのストロー(右)に見立てたペットボトルのふたを、口にくわえたストローから息を吹きかけて動かし、楽しみながらトレーニングする。参加者の様子に手応えを感じており、「いつまでも口

高齢者に「食べる力」を

から食べるためには、早い時期からの予防が大切」。

北見柏陽高2年の時、職業紹介の情報誌で国家資格の言語聴覚士の存在を知り、興味を持った。そして高3の時、当時90歳だった祖母を看病する母の姿に触れた。脳梗塞を繰り返し、認知症だった祖母を、医師は「もう口から食べることはできない」と診断。悩む母から相談も受けた。胃に管を通して栄養を摂取する胃ろうを家族で選択。祖母は半年後に他界した。

この出来事をきっかけに、「高齢者や、その家族の力になりたい」と言語聴覚士の道を選んだ。高校卒業後は札幌の専門学校に進み、資格を取得して地元に戻り、老健施設に就職した。入所者のみとりを経験する中で、最初に一口でも食べるのができれば、家族への思いや懐かしさなど「生きてきた思い出を回想できるのではないだろうか」と感じている。嚥下障害の予防に力を注ぐ理由だ。

NPO法人の認証取得に向けて準備中。将来は市内中心部に拠点施設、多くの人に嚥下障害予防の必要性を伝え、介護する家族、医療・介護職らが気軽に集い、交流できる場になりたいと考えている。嚥下サロンは原則第2木曜の午後2〜4時に、西地区公民館(北見市西富町1)で開催。参加費500円。問い合わせは☎050・5241・5663(入)。(文・熊谷知喜、写真・大石祐希)

嚥下障害の予防に取り組む

言語聴覚士

はしだ

橋田 祐理子さん(30)

北見

